



シン ショウリョウ

沈昭良写真展

浮航—いまだ完結しない島のマジカル

Floating Voyage: Unfinished Island Magic

浮航：未竟的島嶼魔幻

展覧会期：2026 年 11 月 20 日(金)－2027 年 3 月 1 日(月)



《STAGE》ステージカー #121 高雄 台湾 2022

■開催趣旨

本展覧会では、台湾を代表する写真家・沈昭良の作品を紹介します。

台湾の人々は、幾度もの統治者の交代や人と文化の移動を経験し、異なる文化を受け入れてきました。その世相は、どこにも錨を下ろしていないかのように、波に揺られて絶えず変化しながら、自ら進む方向を定め直そうとする、いまだ完結していない歴史の上に浮かぶ島のようなのです。

本展は、台湾の民衆文化を深く見つめる沈昭良の代表的な三つの写真作品を中心に構成されます。

《STAGE》（2006–2023）、《Singers & Stages》（2005–2008）、そして《台湾綜芸団》（2005–2023）で、沈は台湾の寺や廟^{びょう}の祭儀、結婚式、葬儀や地域の祭りなどに登場する折り畳み式の移動式ステージカーを撮影しています。長年のフィールドワークを通じて、移動式ステージカーとともに生活しながら各地を巡る演者たちの日常までも捉えた連作です。路上に突如として現れる大型車が、一瞬にして、街をカラフルで賑やかなステージへと変容させる様子は、その背後にある歴史、生活と結びついた台湾のエネルギーギッシュな文化そのものです。

また、本展で紹介する初期の代表作《築地魚市場》（1993–2023）を出発点として、展覧会は東京から韓国、ブラジルへと巡回します。いまだ完結していない島の歴史を載せて浮航する写真展が、異なる歴史を生きてきた人びととのあいだに、新たな対話を生み出すきっかけとなれと思います。

この機会に貴紙誌にてぜひ記事としてご紹介いただきたく、宜しくお願い申し上げます。



■企画概要

展覧会名 : 沈昭良写真展 浮航—いまだ完結しない島のマジカル
会場 : GALLERY A⁴ (ギャラリーエークウッド) 〒136-0075 東京都江東区新砂1-1-1
会期 : 2026年11月20日 (金) - 2027年3月1日 (月)
開館時間 : 10:00 - 18:00 (土曜、最終日は17:00まで)
11月20日 (金)、1月22日 (金) は20:30まで夜間開館
休館日 : 日曜・祝日、12月26日 (土) - 1月3日 (日)
入館料 : 無料
主催 : 公益財団法人ギャラリーエークウッド
協力 : 台湾文化部
後援 : 江東区
お問合せ : ギャラリーエークウッド事務局 TEL 03-6660-6011
E-mail : gallery_PR@a-quad.jp
公式HP : <https://www.a-quad.jp>

■見どころ

台湾の民衆文化を捉えた代表的な3つのシリーズとともに、初期の代表作《築地魚市場》を紹介。
合計160点以上にのぼる作品を展示する、国内初の大規模展となる。

1 《築地魚市場》1993-2023

沈の日本留学時代にはじまる、初期の写真シリーズ。1993年から現在に至るまで度々訪れた築地市場で、今は姿を消した競りや流通、そこで働く人びとの姿を記録した。今回、プラチナプリントを39点展示する。

2 《STAGE》2006-2023

寺廟の祭儀や冠婚葬祭などに登場する、折り畳み式の移動式ステージカーを、賑やかな公演の熱狂を離れ、夕暮れの田畑や廟前の広場で撮影した。この装置がひとたび舞台を開けば、何気ない風景の空間秩序を、ひとときの間変質させてしまう。

3 《Singers & Stages》2005-2008

各地を巡る歌手たちと、その仕事場である移動式ステージカーを肖像として対比させる。記録写真のような冷静な視点から、舞台という装置と、そこで働く演者との関係を見つめ、人や労働、舞台、地方社会のつながりを浮かび上がらせる。

4 《台湾綜芸団》2005-2023

長期にわたるフィールドワークを通じ、演者たちの、衣装を着替える、食事をする、子どもの世話をするといった生活を捉え、生計を立てることと家庭生活とのあいだを行き来しながら生きる姿を映し出した。

■プロフィール

沈 昭良 シン・ショウリョウ

1968年、台湾・台南生まれ。台湾芸術大学応用メディア芸術修士。大手日刊紙「自由時報」写真記者およびチーフ・コンビナー、台湾国立中央大学客員アーティスト、台湾芸術大学および台北芸術大学の准教授を兼任。“Photo ONE, Taipei（台北国際写真芸術祭）”の主催統括、第9・10期国家文化芸術財団理事などを歴任。現在は、写真/映像の教育・制作・評論・研究に従事しながら関連する国際交流を積極的に推し進め、ワークショップの開催や展覧会企画も行う。華梵大學写真/VRデザイン学科専任教授。



2001年に初の写真集《映像・南方澳》を発表。その後も《玉蘭》(08)、《築地魚市場》(10)、《STAGE》(11)、《Singers & Stages》(13)、《台湾綜芸団》(16)、《闇夜の幽光—権威主義時代の歴史遺構：安康接待室／新店軍人監獄》(24)などの長編写真集を精力的に出版している。00、02年そして12年と「行政院新聞局雑誌写真部門金鼎賞」を3度にわたり受賞。04年日本「さがみはら写真アジア賞」、06年韓国「東江国際写真フェスティバル海外作家賞」、11年度アメリカ・ニューヨーク「Artists Wanted写真年度賞」、12年アメリカ「IPA国際写真賞プロセクション ドキュメンタリー写真部門グランプリ」、15年台湾「呉三連賞」、24年「日本写真協会国際賞」など。

■関連イベント

□トークショー「浮航—沈昭良のマジカル」

日 程：2026年11月20日（金）18:30－20:00

講 師：沈昭良（写真家、華梵大學写真・VRデザイン学科教授）、
伊藤俊治（美術史家）、
港千尋（写真家）

聞 き 手：岡部三知代（ギャラリーエークウッド館長）

場 所：東陽町ぐりんたす 2階ホール（東京都江東区南砂2-5-14）

参 加 費：無料

定 員：100 名 要事前申込（先着順）

申 込：公式HPにて、10月19日（月）10：00より受付予定

□トークショー「沈昭良の写真—沈昭良は何をどう撮ってきたのか」

日 程：2027年1月22日（金）18:00－20:00

講 師：沈昭良（写真家、華梵大學写真・VRデザイン学科教授）
菅沼比呂志（キュレーター、武蔵野美術大学教授）、
小林紗由里（東京国立近代美術館研究員）、
沈裕融^{シン ユウリョウ}（評論家、華梵大學写真・VRデザイン学科助教授）

場 所：東陽町ぐりんたす 2階ホール（東京都江東区南砂2-5-14）

参 加 費：無料

定 員：100 名 要事前申込（先着順）

申 込：公式HPにて、11月30日（月）10：00より受付予定

各イベントの詳細や申し込みは公式HPをご覧ください。

▼公式HP





■広報用画像



1.《築地魚市場》東京 日本 1994.7



2.《築地魚市場》東京 日本 1995.11



3.《築地魚市場》東京 日本 2006.2



4.《築地魚市場》東京 日本 2009.1



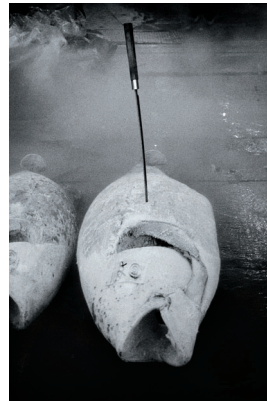
5.《築地魚市場》東京 日本 2023.10



6.《築地魚市場》東京 日本 2006.2



7.



8.

7.《築地魚市場》
東京 日本 1994.6

8.《築地魚市場》
東京 日本 1994.5



9.《STAGE》ステージカー #121 高雄 台湾 2022



10.《STAGE》ステージカー #99 嘉義 台湾 2009



11.《STAGE》ステージカー #21 台南 台湾 2009



12.《STAGE》ステージカー #97 台中 台湾 2011



13.《STAGE》ステージカー #68 台南 台湾 2008



■広報用画像



14. 《Singers & Stages》
歌手 エンジェル 台南 台湾 2008



15. 《Singers & Stages》
ステージカー #34 雲林 台湾 2008



16. 《Singers & Stages》
歌手 ガオヤ 台南 台湾 2008



17. 《Singers & Stages》
ステージカー #41 台中 台湾 2008



18. 《台湾綜芸団》
夜市での歌と踊りのステージ、人と車が入り乱れる
新北 台湾 2020.9



19. 《台湾綜芸団》
朝の光に照らされる葬儀
嘉義 台湾 2008.12



20. 《台湾綜芸団》
ポールダンサーによる群舞
新北 台湾 2006.3



21. 《台湾綜芸団》
父親の肩の上に座り、舞台をじっと見つめる子ども
新北 台湾 2006.2



22. 《台湾綜芸団》
公演を終え、バックステージへと戻る
台北 台湾 2012.2



23. 《台湾綜芸団》
郊外の信徒たちが傘をさして農道に立ち、
神々が通り過ぎるのを待つ 新北 台湾 2006.5



24. 《台湾綜芸団》
泣き女が喪家の棺の前で、腹ばいになって進む
嘉義 台湾 2008.7



25. 《台湾綜芸団》
ポールダンサーは脚の力だけで
ポールから逆さ宙吊りになる
台北 台湾 2005.12